

教会は艱難時代の前に携挙されて地上にはいません。

では、この人たちはどうやって神のことばを聞いたのか。誰が神のことばを伝えたのか。

教会が去った後、教会／クリスチャンに代わって、世界中で御国の福音を伝えてくれる人たちがいるんです。それは 144,000 人のユダヤ人伝道者たちで、彼らは教会が携挙された後、地上でイエス・キリストを信じたユダヤ人です。

ユダヤ人は全世界に 1360 万人いると言われていて、そのうちの 610 万人はイスラエルに、750 万人は世界中の色々な所に住んでいて、日本にも 2 千~3 千人が住んでいると言われていて、

それらの国々に住んでいるユダヤ人は、その国の言葉を自由自在に駆使することができるんですね。

彼らの中からキリストを信じる人が起こされたら、新たに言語を習得する必要はありません。

既にマスターしているから。

自分が住んでいる国の言葉で、その国の人たちに話すことができる。日本にいるユダヤ人の中でイエス・キリストを信じる人が起こされたら、日本語で日本人に、御国の福音を伝えてくれるということなんですね。つまり、艱難時代には、全ての異邦人はユダヤ人のお世話になります。

なので、ユダヤ人を今祝福するのはなにも変なことではないんですよ。

ポイント 2) 艱難時代にキリストを信じて証しを立てる（信じたことを明らかにする）と殺される誰に殺されるのでしょうか？ その信仰を否定し、反対し、命まで取るのはいったい誰なのでしょう？ 反キリストでしょうか。違うんですねえ。この時点では。

艱難時代は前半 3 年半と後半 3 年半に分けることができ、信者たちを迫害する者は、前半と後半で違います。

前半の迫害者は世界統一宗教です。これは全ての宗教を統合する大きな大きな宗教団体で、携挙されなかった教会が中心となって、そのような教会を作ることになります。

この世界統一宗教については、[あっさり黙示録](#)で 17 章に行った時に詳しく解説します。

「17 章ってまだまだ先じゃないか。そんなの待てないよ」という方は、『[ざっくり黙示録](#)』で既に動画をアップしていますので、どうぞご覧になってください。

いずれにしても、この時代 キリストを信じることは命懸け。にもかかわらず、大勢の人々が信じる。

なぜでしょうか。聖書のことばによって、艱難時代の正体を見破ることができるからです。

聖書が真理なんですね。みことばは光です。闇を照らして、闇の中にうごめいている者たちの正体をあぶり出すことができます。それは今の時代も同じです。

ポイント 3) 殉教者たちの叫びの祈り

キリストに訴えている内容は **10 節**

彼らは大声で叫んだ。「聖なるまことの主よ。いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさないのですか。」

キリストに向かって 3 つの呼び掛けをしていますね。聖なる まことの 主。

聖なるは道徳性において完全。まことは真実。主は全能の神。

「キリストは、不正を見逃さない 真実な 全能の神であられます。私たちは今、その方を目の当たりにしています」と言って礼拝しているのです。

しかし、そのような方であられるゆえに、彼らの中には疑問があったんですね。

「あなたのご性質を考えたら、今地上で起こっていることは相容れないではありませんか？ 不正を見逃さず、不正義を見過ごさず、正義を守り、罪なき者の叫びをないがしろにしないキリストが、なぜ、今地上で起こっているムチャクチャな事をほったらかしにされているのですか？ なぜそのままにしておられるのですか？ いつ裁きをなさるのですか？」と訴えているのです。

11 節。 答えです。

すると、彼ら一人ひとりに白い衣が与えられた。そして、彼らのしもべ仲間で、彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように言い渡された。

彼らと同じように殺されようとしている兄弟たちというのは、殉教者はまだまだ増えて行くということ。数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように。殉教者たちの数が満ちた時、キリストは天の御座を立て、裁きのために地上に下りて来られます。これを地上再臨と言います。

「地上再臨で必ず裁きがあるので、それまでもうしばらく待ちなさい。待っていなさい」と答えがあったのです。

さて、今まで 4 つの封印の解説が終わり、5 番目の封印解除の説明をしているのですが、1 番目から 4 番目は裁きの内容でした。5 番目も裁きであるはずなのですが、ここでは祈りが出て来るんです。なぜこれが裁きになるのでしょうか？ 聖徒たちの祈りは必ず応えられるからです。

「いつまでさばきを行わず、地に住む者たちに私たちの血の復讐をなさらないのですか。」

「神よ、なぜ悪を裁かないんですか」と訴えている殉教者たちの祈りの応えとして、キリストは裁きを下されます。聖徒たちの祈りを、キリストは決してないがしろになさいません。

正義を希求する殉教者たちの祈りはそのまま 必ず神の裁きを呼び起こすので、この祈りは裁きといってよいのです。

ところで、キリストを信じて 真心から信頼して祈ったにもかかわらず、応えられないままになっている祈りがいくつかあるのではありませんか？ 私にもあります。

神はその祈りを無視されたのでしょうか？ 聞かなかったのでしょうか？

そうではありません。神は聞かれました。しかし、神が聞かれるタイミングと応えられるタイミングの間に、しばしばタイムラグがあるのです。

祈りは、祈った瞬間に神は聞いておられます。しかしその応えは、神が一番良しとするタイミングで実現するのです。一番良いタイミングは祈っている者が分かるのではなく、応えてくださる方にその主権があり、応えが見えているということなんです。

私たちの祈りは決してないがしろにされることがないので、たとえ今まだ応えられていなくても、祈りをやめてはなりません。神が一番良い時に応えてくださいます。

さて、次回いよいよ 6 番目の封印です。

7 番目の封印が解かれると 7 つのラッパが出て来るので、6 番目の封印はある意味、前半の最後の裁きと言えるんですね。いったいどんなことが起こるのでしょうか。次回解説しますので、ぜひご覧ください。

もしよろしければ、チャンネル登録もお願いします。

ではまた このチャンネルでお目にかかりましょう。それまで皆さん、お元気でいてください。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。